

平成30年度 第2回ちがさき自転車プラン推進委員会 会議録

議題	(1) 第2次ちがさき自転車プランの中間評価(答申案)について
日時	平成30年10月18日(木) 10時00分から11時30分まで
場所	市役所分庁舎5階 特別会議室
出席者氏名	<p>(委員) ※計15名 齊藤 進、古倉 宗治、田野 敏明、新谷 雅之、平本 善昭、藤澤 努、 益田 和子、和田 高伸、小俣 晴俊、下江 晴治、福田 三朗、本田 弘巳、露木 輝久、仲手川 仁志、牧野 末次</p> <p>(欠席委員) 山上 著、佐藤 たゑ子、小野江 達人、竹中 尊男、三橋 博</p> <p>(事務局) 理事兼都市部長 大野木 英夫 都市政策課 課 長 後藤 祐史 課長補佐 守瀬 暢彦 副 主 査 山形 冬樹 安全対策課 課 長 梅原 正史 課長補佐 大八木 元</p>
会議資料	次第 委員名簿 資料1 第2次ちがさき自転車プランの中間評価(答申案) について
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	
傍聴者数	なし

(会議の概要)

1 開会

2 議題

(1) 第2次ちがさき自転車プランの中間評価(答申案)について

資料1の第2次ちがさき自転車プランの中間評価(答申案)について、事務局より概要説明を行い、概ね了承を得た。本日の委員会での指摘事項に関する修正については、委員長と事務局で調整した後、答申することについて了承を得た。

3 その他

次回は3月頃の開催を予定。

4 閉会

○事務局（後藤課長）

定刻になりましたので、平成30年度第2回ちがさき自転車プラン推進委員会を開催いたします。

私、都市政策課長の後藤でございます。よろしくお願い致します。

10月4日に服部市長が逝去しましたことをこの場を借りてご報告させていただきます。本委員会は、原則公開となっておりますが、傍聴の申し出はございませんので、このまま会議を進めさせていただきます。

本日の会議は、20名の委員のうち、出席者が15名でございます。従いまして、ちがさき自転車プラン推進委員会規則第5条2項の規定により、会議が成立していることをご報告いたします。

それでは、次第の「2 議題」に入ります。規則に従い、これより、斉藤委員長に進行をお願いいたします。

○斉藤委員長

皆さん、おはようございます。それでは、平成30年度の第2回ちがさき自転車プラン推進委員会を進めてまいりたいと思います。議事録署名人に、私と私が指名した委員の方を名簿順で毎回お願いしております。今回は、和田委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは次第をご覧いただきたいと思います。議題を見ていただいて、今回は、「第2次ちがさき自転車プランの中間評価（答申案）について」が議題となっております。事務局から資料の説明をいただき、各委員から意見を頂きたいと思います。

○事務局（山形副主査）

<資料1に基づいて説明>

○斉藤委員長

ありがとうございました。中間評価の案ということで各委員に事前に照会いただき、その結果をまとめていただきました。進捗状況も含めて、評価を検討していただきました。委員の意見を入れながら、大変詳細に中間評価をしていただきました。全体通して質問、意見があれば、各委員からお願いします。

○平本委員

私は神奈川県地球温暖化防止活動推進員ですが、地球温暖化対策として、車から自転車や公共交通に乗り換えると、CO₂を削減できます。地球温暖化対策を考えると、自転車は大事な施策となりますが、国の計画をみると、環境の視点が弱いと思います。

○事務局（守瀬課長補佐）

今いただいたご意見は国の自転車活用推進法の14の施策の中で、環境の度合いが薄いというご指摘だと思います。法律を見ますとそのような状況が一部みられ、環境より生活に即した方針が出ていると思われまます。ちがさき自転車プランにおいては、環境面を重視する方針は変わらず、国の方針も確認しつつ、自転車が環境によい乗り物という考え方は変えるつもりはなく、このままプランを推進していきたいと思ひます。

○新谷委員

8ページに目標値の指標の実績値が%で書いてありますが、資料の42ページ以降のアンケートの集計結果のどこに対応しているかわかりにくいと思ひます。

○事務局（守瀬課長補佐）

資料の作り込みが足りなかつたので、わかりやすく表記するように修正します。

○古倉委員

中間評価について、その全体の体系がわかりにくい。評価の全体体系、その構成などをしっかり整理した方がよいと思ひます。

○事務局（守瀬課長補佐）

今回中間評価を行うに当たり、細かい部分に入り過ぎて、市民の方など第三者の方が見て、評価がどのようにリンクしているか、全体像がどうなっているかわかりにくい面もあるので、委員会後になってしまひますが、8ページの前あたりに、全体を俯瞰できる内容を追加したいと思ひます。

○斉藤委員長

評価のつながりがわかるように、説明の追加をお願いしたいと思ひます。

○仲手川委員

評価について、8ページの指標に対する評価は、70%を基準に○△×で評価をしています。一方、19ページ以降の主要な取組に対する中間評価では、一部でもできていれば△の評価となり評価の考え方が違ひます。定量的な評価と定性的な評価で評価方法が違ひ点が気になりますので工夫するとよいと思ひます。

○事務局（守瀬課長補佐）

ご指摘のとおり、8ページの評価と19ページ以降の評価について、第2次ちがさき自転車プランでは、数値目標をもっているものと定性的なものに分かれています。19ページ以降の評価について、「一部」という表現の解釈は様々ではあり、プランの立てつけの違ひにより、曖昧さが残ってしまっている状況です。このプランにさらに数値目標を当ては

めることは難しいと考えますので、今回は各委員の○△×の評価を踏まえ、評価をしています。定量的な評価に比べるとわかりにくさがありますが、プランがこのようになっているのでご理解いただきたい。

○事務局（後藤課長）

補足しますと、先ほど評価の全体体系を示した方がよいとご意見を頂きましたので、個別の評価に入る前に、そのような説明を追加したいと思いますが、その中で、4-1、4-2の評価方法が異なる点について、説明を追加したいと思います。

○斉藤委員長

評価の考え方など説明を詳しくしていったらどうでしょうか。

○益田委員

丁寧を作っていると思います。最初は41ページのまとめの内容がもっと膨らむと思っていました。まとめを読むと全体がわかるようになっていたと思います。事務局から先ほど説明があった内容が、全体のダイジェスト版になると思います。まとめを読むと全体がわかるようなかたちになると思うので、この部分をさらに膨らませるとわかりやすいと思います。

○事務局（守瀬課長補佐）

繰り返しになると思ったので、まとめは記載を最小限にとどめましたが、先ほど口頭で説明した内容を、まとめとして追記したいと思います。

○和田委員

参考資料として自転車の事故率が表示されていないので、市民にはどのくらい事故があるかわからない。茅ヶ崎市の値、神奈川県を参考資料として追加した方がわかりやすいと思います。ちなみに、茅ヶ崎市の全事故に占める自転車事故の割合は約33%であり、県平均に比べて高い状況にあります。

○事務局（梅原課長）

ご提案頂きました事故のデータについては、追加するようにいたします。

○斉藤委員長

また、先ほどの益田委員からの意見ですが、これだけ詳細に分析した割には、まとめが少ないと思います。先ほど説明されたような内容を示した方が、市民の意識を高めることにつながると思いますので、ぜひそのようなかたちで対応して欲しいです。

○古倉委員

今の点ですが、評価全体のまとめがあって、それを受けて今後どのような取組をしていくかという流れになると思います。それが、前半で評価をたくさんしていて、急に今後どうするかという流れになってしまっているの、再度評価のまとめがあった方がよいと思います。まとめ部分の流れが急なところに違和感があります。

それから、7ページで自転車活用推進法における基本方針との対応を整理していますが、6月8日に国の自転車活用推進計画が閣議決定されています。その中で、82項目の措置が書かれていますが、最後に災害時の自転車活用の推進があります。災害時に停電やガソリン不足が起こった時にどのように自転車を活用するのか。国も重視しているし、地域社会の安全の向上につながると思います。今年は地震や風水害もあったので、災害時の自転車の活用についても少し考えてもよいと思います。

○事務局（守瀬課長補佐）

評価のまとめについては、18ページに評価をまとめていましたが、41ページの前に改めて主要な取組のまとめを追加したいと思います。

また、災害時の活用については、広島の高雨災害の際も道路が不通で、鉄道が使えない中で自転車が活用されたというニュースを見ましたし、近隣市の取組でいうと、大和市では消防隊員が自転車で現場に向かうという取組をしているというニュースを見ました。茅ヶ崎市では、まだそういった取組を進めていないので、国の動向を見ながら、そのあたりの取組もできるとよいと思います。

○斉藤委員長

7ページに災害時の自転車の有効活用に関する記載がありますが、まとめにも改めて記入していただくとよいと思います。

○福田委員

皆さんの意見と重複する部分がありますが、最終的にこの評価は委員会として出すことになると思います。この中間評価の中に市の評価、委員の評価が分かれています。さきほどのまとめは、委員会の評価として取組の評価をまとめてもらった方がよいと思います。

また、アンケートの回収率が高いという話がありましたが、この48%という回収率が、市が行う一般的なアンケート調査の回収率に対してどの程度高いかわかりましたら教えてください。

○事務局（守瀬課長補佐）

先ほどから「5 まとめ」の前に追加するまとめについて、委員会の評価のまとめとなるように工夫したいと思います。

また、アンケートの回収率で48%はかなり高いと思います。回収率については、正確

な数値は持ち合わせていませんが、概ね3割から4割が目安となりますので、そこと比べるとだいぶ回収率が高いと思います。

○斉藤委員長

委員会の意見として、統一してまとめるのは難しいと思います。文章で方向性などをまとめた方がよいと思います。可能ならそういった対応をお願いいたします。

本日、いただいた意見を踏まえて中間評価（案）を修正したいと思いますが、できれば頂いた意見、内容を事務局で精査していただいて、委員長である私と事務局で調整させていただいて、最終の中間評価としてまとめさせていただきたいがよろしいでしょうか。

（異議なし）

責任を持って、皆さんの意見を踏まえて、中間評価として整理し、答申として出したいと思います。どうもありがとうございます。

議題は以上で終了しますが、改めて5年間の取組を振り返っていただいて、これまでの課題の指摘、あるいはこれからこの計画が進んでいく中で将来の取組に向けてこういった点を重点的に考えて欲しいなど問題提起等があればご提案いただきたいかがでしょうか。

○益田委員

中間報告については、個別に色々評価いただいた事務局にはご苦勞があったと思いますし、我々もアンケートも含めて中間評価を読ませていただきました。それを通じ感じたことは、アクション22で茅ヶ崎の自転車問題に様々な角度から取り組んできましたが、事務局から話があったように予算がなく法定外路面標示の整備がなかなか進まない状況です。自動車に対して自転車を意識させること、細い道路においても視覚的にわかるよう矢羽根や自転車のマークを整備することが必要だと感じています。最重要課題でありますなかなか取り組めないことに、いかに効果的、効率的にやっていくか。茅ヶ崎駅周辺の地区の市民集会では必ず自転車問題が意見として出ます。それは多くの人が駅に向かって自転車を利用するからです。そこに住んでいる人は自転車に脅威を感じているので、こうして欲しい、ああして欲しいという意見が出てきます。より効果的に行うには、駅周辺にそういったものを順次整備していくことが必要だと思います。3年前に大和市を視察した時に、駅周辺では裏道にも路面標示が整備されていました。そして、裏道においても交通ルールが守られていたことから、そういった整備が必要だと思いました。最近では東京でも大きな道路において、交差点部分にだけ矢羽根が整備されるようになりました。茅ヶ崎市には、国道1号に自転車レーンが整備されていますが、駅へ通じる道路に入ると、自転車はどこを走るかわからないという現実があるので、そこだけでも矢羽根などを整備してもらえば、自動車にも自転車がどこを走るかわかる。まずは、そういった中心的な場所に整備して欲しいと思います。そして、どうすれば整備できるか教えていただければ、積極的に協力できると思います。中間評価を行ってそう思いました。

○古倉委員

これだけ丁寧に評価したのは大変な作業だと思います。これだけ評価されている以上、それに見合ったような成果がしっかり反映されることが期待されます。

また、2010年の国勢調査の結果を見ますと、通勤通学の分担率は神奈川県下で一番高く17%であり、また、全国で50位には入っていると思うので、それは誇りに思っ
てよいと思います。自転車を使ったまちづくりを行っている結果であり、すごい数字だ
と思うので、そういったことを市民に理解していただき誇りを持っていただくと同時に市民
に協力を促すとよいと思います。例えば、放置自転車でワースト10になった都市は、市を
上げて対策を行うので、次の調査時にはワースト10には入らない。ワースト10になら
ないように努力する。一方で、こういったよい面はあまり強調されないで、市民にPR
し、自転車のまちという誇りを持っていただくとよいと思いますし、そういった中で自転
車の基本的なことを説明いただけるとよいと思います。

また、さきほど地球環境の話が出ましたが、最新の数値を見ると、一家庭当たり年間4.
5 tのCO₂を排出していますが、その中で自動車からの排出は22.1%であり、累計で
第2位となります。そして1位は家電製品となりますが、なかなか節約しにくい。冷暖房
を1℃調整しても削減量は年間32kgです。一方、自動車を一日10分控えると年間で5
88kgのCO₂を削減することができます。4.5 tのうちの0.6 tなので大きな効果と
なります。自動車で10分ですと距離にすると3km程度なので自転車で代替できます。そ
ういった意味で貢献していくことをPRするとともに、健康面でのアドバイスなどを示さ
れることもよいと思います。

○斉藤委員長

大変ありがとうございました。予定されていた議題は終了しましたので、最後に事務局
から連絡事項があればよろしくお願い致します。

○事務局（後藤課長）

様々なご意見をいただき、ありがとうございました。いただきましたご意見・ご指摘に
つきましては、事務局で修正させていただき、委員長と相談しながら答申としてとりま
とめさせていただきます。

また、委員の皆様におかれましては、本年11月15日をおもちまして、2年の任期が終
了となります。お忙しい中、会議への出席等にご協力いただき、ありがとうございました。

なお、資料としてつけさせていただきましたがちがさきヴェロ・フェスティバルは10
月27日の土曜日9～16時の開催を予定しておりますので、よろしかったらご参加いた
だきますようお願い致します。

斉藤委員長におかれましては、11月15日をおもちまして委員長を退かれることとなり
ます。これまで委員会の運営にご尽力いただきましてありがとうございました。最後に一

言、よろしいでしょうか。

○斉藤委員長

こういうかたちで第2次ちがさき自転車プランの中間評価をまとめることができました。今後は事務局と詳細に相談しながら最終の答申として、内容を詰めさせていただきます。改めましてこの会議で熱心に、また積極的にご意見、ご発言いただき、ご協力いただいたことに感謝申し上げます

平成16年の自転車プラン検討時からはじまり約15年お手伝いさせていただきましたが、このメンバーとしては最後になるので、ご挨拶をさせていただきます。

全体を通して思っていることは、これまでの当り前を変革しなければならない。スローガンは「自転車のまち 茅ヶ崎」ですが、15年間携わって思うのは、「茅ヶ崎のまちは自転車で」です。「自転車のまち 茅ヶ崎」は頭の中でわかっていますが、ルールを守らない、危険性がある。自転車のまちにしようということはわかっていますが、それが具体的に中心になっていない。そうであれば、スローガンを変えるわけではないですが、「茅ヶ崎のまちは自転車で」でいきましょう、そういう社会を作っていきましょう。生活価値観の変化を、自転車を通してやっていく。スローガンはずっと「自転車のまち 茅ヶ崎」でよいが、今後5年間は「茅ヶ崎のまち 生活するなら自転車で」。そうするためにはどうすればよいか。ソフト面は充実していますが、それが画期的には変わっていないところがあります。そのためには、見えるところから具体的に変わっていくということがある。それはハード面です。お金がかかりますが、ハード面が変わらないとソフト面で実施していても変わらないところがたくさんあります。「茅ヶ崎のまちは自転車で」では、ハード面を集中的に変え、今までの意識をそこに投入する。そのためには、自動車の制限と専用道の整備が2大重点テーマであると考えます。生活環境のために自動車を制限する。それから専用道があることが重要だと思います。「茅ヶ崎のまちは自転車で」でいきにくい状況がありますが、自動車の制限と自転車通行空間の整備促進を行うと、これまでのソフト面の蓄積が活かされ、あっという間に「自転車のまち 茅ヶ崎」になると思います。

十数年間お手伝いをさせていただきましたが、ぜひ新たに委員に就任される方はそういう意識でハード整備に少し協力しながら、今までの蓄積でソフト変革を実現する。残りの5年間はその結果を出す期間だと考えて、ご活躍していただければと思います。皆さんに支えられて、委員長の責務を全うできました。感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

○事務局（後藤課長）

斉藤委員長ありがとうございました。次回の改選後の委員会は3月頃を予定しております。内容は、「委員の委嘱」、「委員長、副委員長の選出」、「次の5年間の具体的な取組内容」を予定しております。以上です。

それでは、本日の会議は以上になります。ありがとうございました。

会長署名 齊藤 進 _____

委員署名 和田 高伸 _____